

# 提 言 書

かがやきの文化都市部会

テーマ：郷土愛を通じて若者の定住を図る

～中高年の知識等を活用し、地域の歴史・文化に対する意識の高揚を図る活動を通して、子どもや若者の郷土愛を育み、若者の定住を図る～

## 1 問題の所在

平成26年5月に国立社会保障・人口問題研究所が発表したデータによると、新見市の人口は、2014年で32,853人ですが、26年後の2040年には21,500人となり、特に子どもや子どもを産み育てる年代である20代から30代の女性の人口が急激に減少すると推計されています。

このような予想を認識し、今後「かがやきの文化都市」づくりを進めるためには、地域の活力を計るバロメーターである人口の減少を食い止めることが最大の課題であると思います。

この課題を克服するためには、地域が人と人との繋がりと絆を大切にしたい町づくりを目指し、若者が郷土に愛着と誇りを持ち、地域への定住を促すことで人口減少に歯止めをかけることが重要なカギを握っていると考えます。

## 2 具体的提言

### (1)「郷土愛」について

郷土を愛する心は、物心の付く頃から育まれていくものです。私たち市民自らが、地域の伝統文化や豊かな自然、豊富な食材を提供してくれる農業や特色のある産業、郷土の偉人など新見市が誇れることがらやその魅力を、あらゆる機会をとおして今の子どもたちに伝えていくことが大切です。

そのためには、まず、大人たちが新見のすばらしさを再確認し、家庭の中で、子どもたちに伝えていく努力をしていくことが大切であると考えます。

また、学校教育では、総合学習の時間等を活用したり、学校支援ボランティアをとおして、子どもたちから地域のすばらしい自然や伝統文化等を学習し、郷土に誇りを持てる子どもを育成していくことが重要です。

さらに、公民館を郷土の魅力再発見の拠点施設とし、住民自らが学んでいくことができる機会を提供するとともに、地域に貢献するリーダーの育成を行うことで、世代をとおして郷土愛を育てていくことができる環境づくりが重要であると思います。

### (2)「若者の出会いの場」について

地域の文化活動等を若者の出会いの場としても捉え、インターネット等を活用し広く情報発信し、他の地域からも多くの若者を招き入れ大勢の人が交流できるよう、若

者の知恵や活力を登用していくことが必要であると考えます。そして、このような出会いの場を継続的に設けていくことが、若者の定住に繋がるものと考えます。

このような文化活動等のイベントの実施を、官民が一体となって連携し、継続的に実施していくためには、予算的な支援措置が最も必要であると考えます。

### (3) 「広げようあいさつの輪を」について

「あいさつ」は人間が生活していくうえで、最も基本的な礼儀作法です。地域社会において、明るくあいさつが交流の輪を広げ、人間関係を円滑にします。そして、他の地域から新見市へ訪れた人を温かく受け入れることができ、素晴らしい出会いにも繋がっていくものと考えます。さらに「あいさつ」をしっかりとすることが、非行や犯罪の抑止にもなると思います。

「あいさつ」の輪を広げるためには、家庭、学校、職場、地域等あらゆる場所や機会をとおして“あいさつ運動”を推進することが大切であると考えます。

そこで、『あなたに明るく「愛さつ」をしよう！！運動』を提唱します。

## 3 まとめ

私たちは、部会の話し合いを進める中で、新見市が取り組まなければならない問題は人口減少問題だと考えました。そして、人口減少を食い止めるには、若者の定住が必要であり、「郷土愛」「出会いの場」「あいさつ」の3つのキーワードに関わる取組を行うことで、定住を促すことにつながると考えています。

それらの取組の企画・運営に若い世代の人の参加を促し、いろいろな文化活動に新しい風を入れ、それらのイベントをインターネット等で全国に情報発信することで、若者の郷土離れを止めるだけでなく、他市や他県からの移住も見込むことができると考えています。

しかしながら、以上の取組を行うには、地域の方々や行政、企業の連携が必須となり、予算的な支援措置が最も必要であると考えます。

今回、提案しました3つの柱を中心に、官民あげて強力で推進し、人口減少に歯止めをかけることで、今後の新見市が「かがやきの文化都市」に向かって大きく近づいていくものと思ひ、以上提言するものです。